



2022年の冬へ向けた対策 ～高齢者施設における対策～

神奈川県福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課
健康医療局医療危機対策本部室
2022年11月11日 v1.0

今年の冬は...

人々のCOVID-19免疫低下による
新型コロナ第8波の流行...

海外渡航再開による
季節性インフルエンザの流行...

対策 1

一人一人の基本的感染対策

ワクチンの接種 家族内感染への対応 セルフチェックの徹底
マスク着用等感染・感染可能性時の他者への接触行動

対策 2

高齢者と小児対策

感染予防 セルフチェック

対策 3

医療キャパシティ確保

対応医療機関の拡大 必要度に応じた医療アクセスの仕組み



COVID-19

～2022年・夏

ワクチン3回接種で
重症化阻止の基礎免疫を獲得

2022年・冬

10/11～水際対策緩和により
海外からウイルス流入（本邦流行株とは異なる株）
高齢者、小児重症例、罹患後症状対策として
感染阻止のための免疫獲得が必要

2価ワクチン
（オミクロン株対応；BA.1/BA.5）



インフルエンザ

南半球で流行
本邦では約2年間感染流行がなく免疫低下

10/11～水際対策緩和により
海外からウイルス流入

一定程度の流行予測



季節性インフルエンザワクチン

➡ 患者発生と重症化を大幅に抑制

1

非対面診療の推進



- COVID-19オンライン診療体制の強化
- 薬剤の配送体制を強化

外来診療キャパの確保

2

高齢者対策

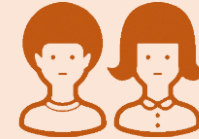


- ワクチン接種
- 施設内感染予防強化と支援

高齢者診療キャパ確保

3

小児対策



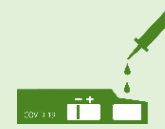
- ワクチン接種
- 小児入院施設増とICU増

小児診療キャパの確保



ワクチン接種の 更なる推進

- COVID-19 2価ワクチン接種計画の推奨
- インフルエンザワクチン接種の推奨



施設職員向けセルフチェック のための抗原検査キット支援

- 抗原検査キット配布事業
- 有効な活用例示



入院要否の判断

- 入院を原則としない
- 入院が必要な病態の例示
- 相談窓口
- 地域療養モデル活用



施設内での療養体制

- 往診やオンライン診療・処方を活用
- 入院が必要な病態の例示
- 療養のあり方指導

県が示す感染症警戒レベルに応じて従事者のセルフチェックを実施

医療ひっ迫状況のレベル分類について <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/covid19/ms/level.html>
レベル1（維持すべき）、レベル2（警戒を強化すべき）、レベル3（対策を強化すべき）

感染症警戒レベル
レベル1・2の時の活用例



コロナと思われる症状出現時に
自宅でセルフチェック



週1～3回、定期的に
自宅でセルフチェック

陽性時

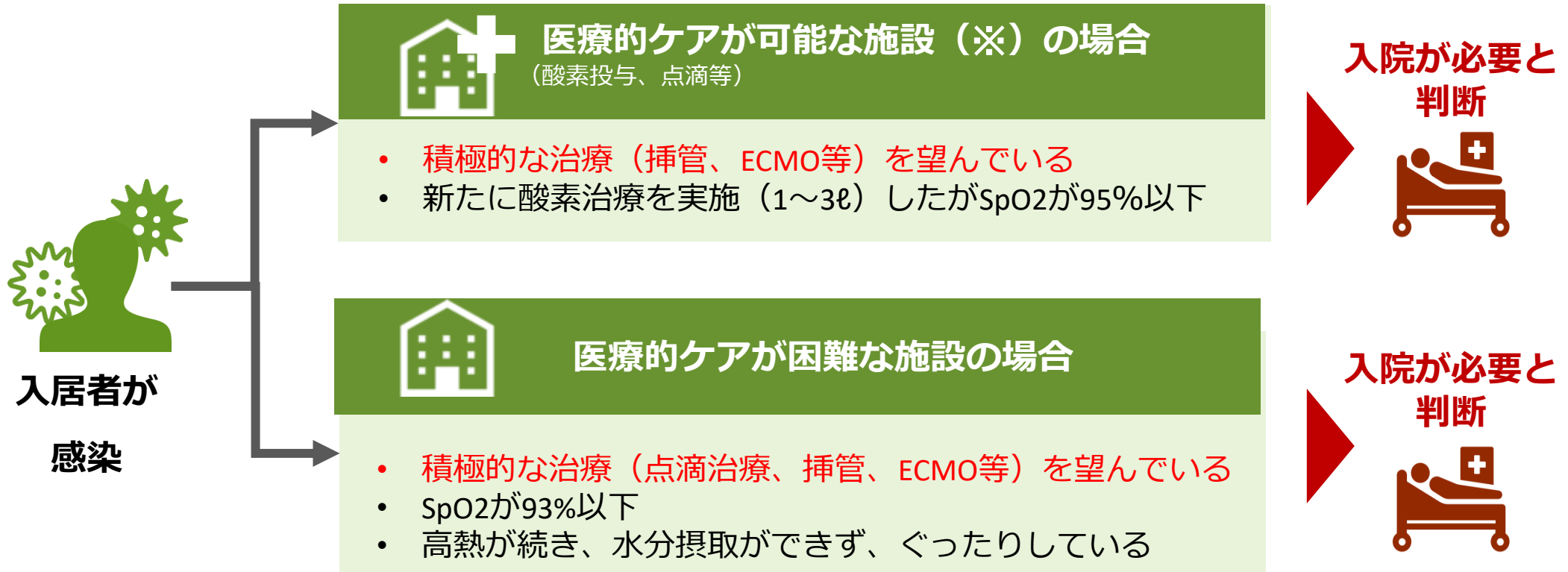
出勤せず自宅療養または受診・陽性者登録窓口に登録

陰性時

症状継続時は出勤せず、自宅療養または受診

【参考】施設で陽性者が発生した際の「入院が必要な病態」の例示

第7波における入院が必要と判断された陽性入所者例は以下のような病態像でした
事前のACP（アドバンスケアプランニング）の推進が前提として



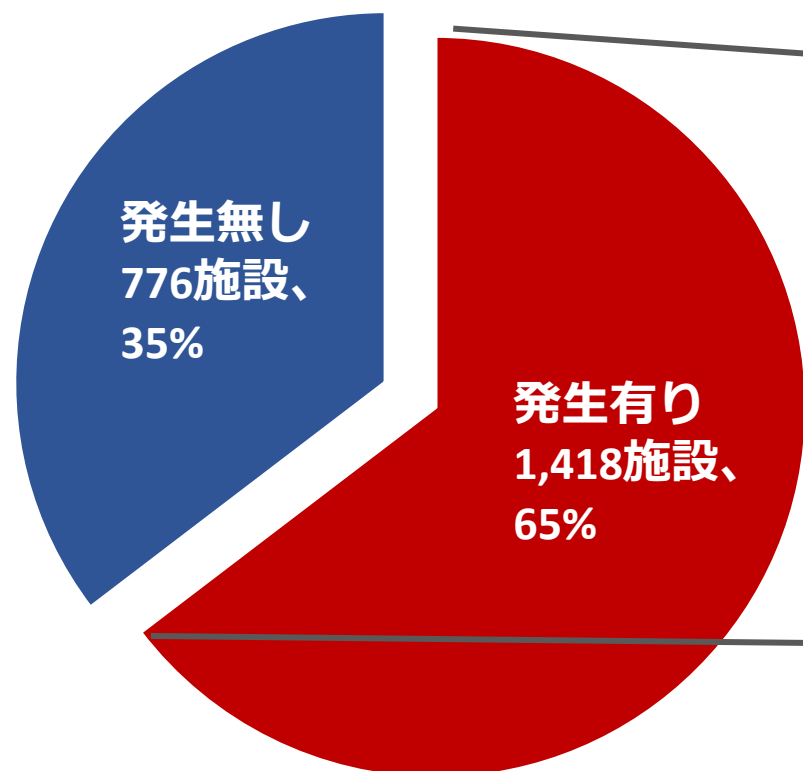
※介護医療院、介護療養型医療施設及び一部の介護老人保健施設を想定

- ①ワクチンは全ての基本です！
新型コロナウイルスワクチンとインフルエンザワクチンを接種することにより、感染や重症化を大幅に抑制することができます。ワクチン接種がさらに進むよう利用者や職員への丁寧な説明、働きかけをお願いします。
- ②適切なマスク着用や手指衛生といった**標準予防策を継続**するとともに、**効果的な換気**を行い感染の発生や拡大の防止に努めましょう。
- ③**抗原検査キットを活用したセルフチェック**を適切に行い、感染の発生を早い段階で探知できる体制を築きましょう。
- ④施設内での療養・治療に備え、平時のうちに利用者の基本情報や治療希望等を整理するとともに、**協力医療機関と連携内容を確認**しておきましょう。
- ⑤衛生・防護用品（特にN95マスク）や抗原検査キットは**十分な量を備蓄**しておきましょう。

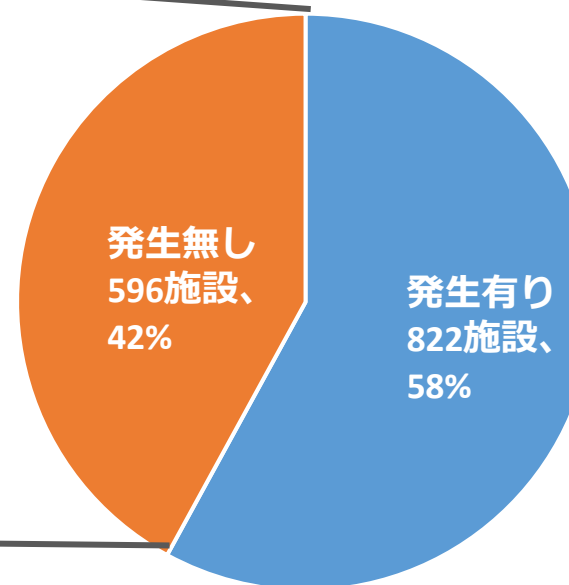
目的	新型コロナ陽性者発生時における高齢者施設対応状況調査
対象者	神奈川県内の入所系高齢者施設（約2,900施設）
調査方法	Webフォーム
調査期間	令和4年9月20日（火）～9月30日（金）
回答数	2,194件（回答率：約75%）
質問内容	<ul style="list-style-type: none">・ 感染者数累計（入所者・職員別）・ 施設内療養・入院・死亡者数等・ コロナ専門治療実施状況と療養経過等・ 物資の備蓄状況（N95マスク、ガウン、抗原検査キット等）・ 施設内の換気設備・環境清掃の状況 等々・・・

- ・ 令和4年4月から4か月間で65%の施設で感染が発生しました。
- ・ うち、職員のみが感染した施設は42%でした。

陽性者発生施設の割合 N=2194

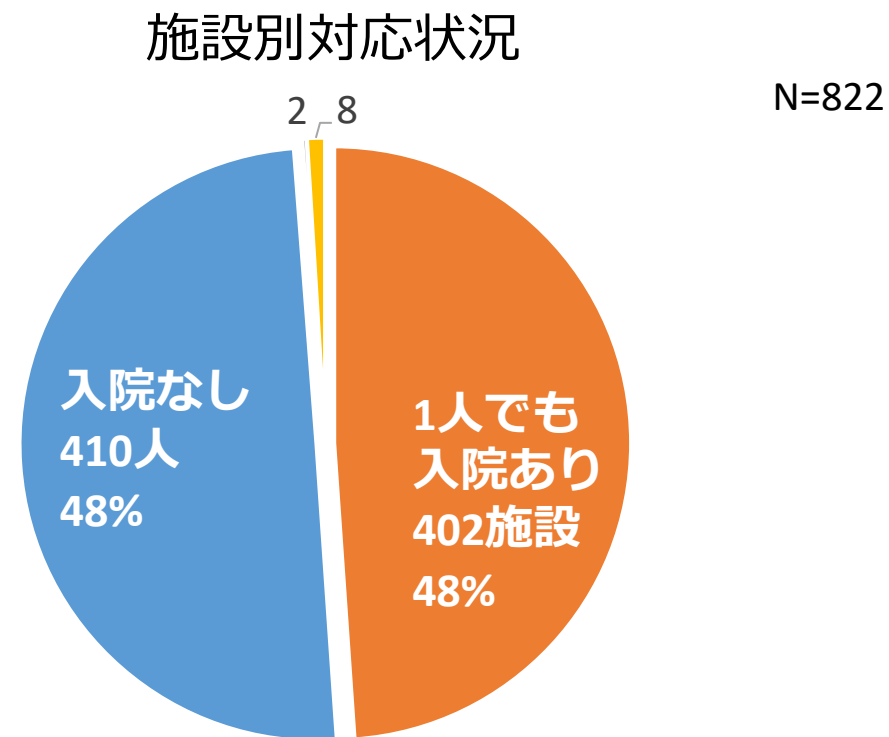
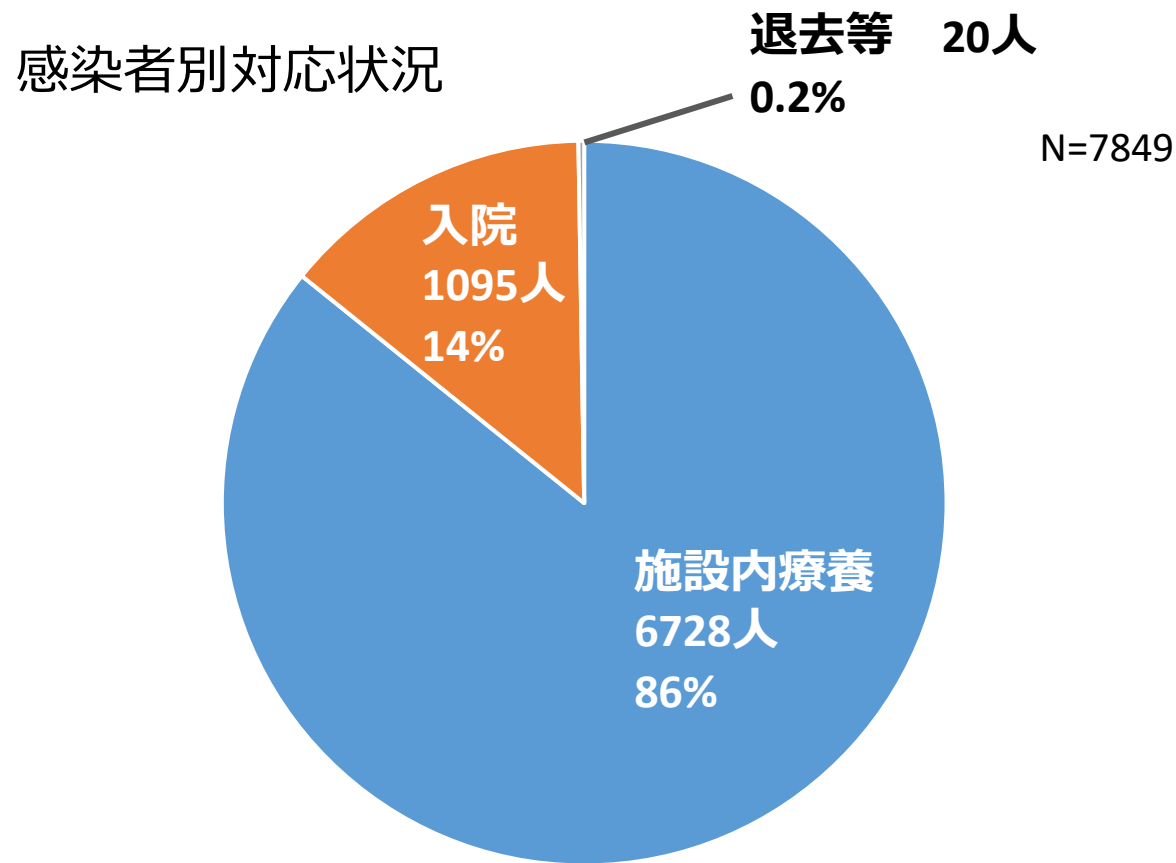


うち利用者発生施設の割合 N = 1418



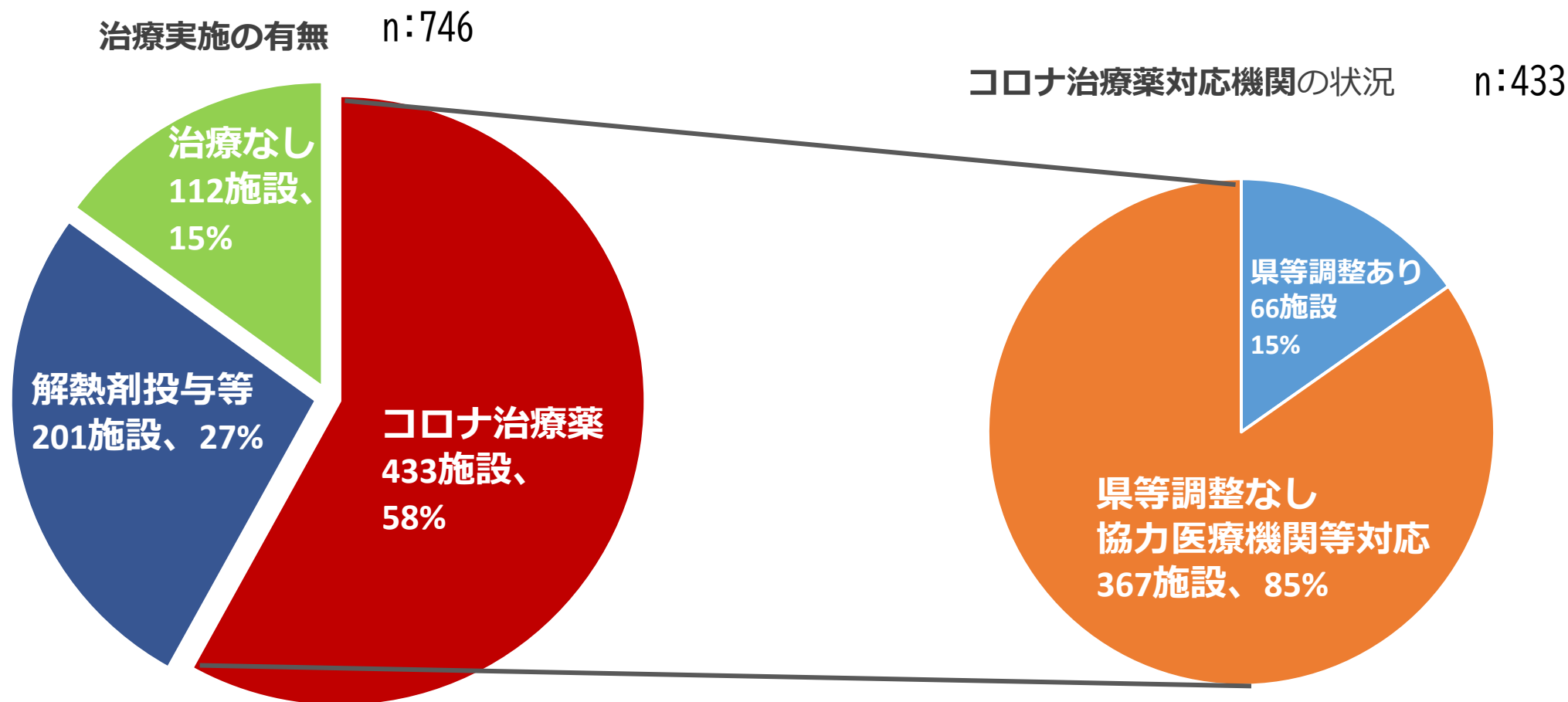
■ コロナ発生 ■ コロナ発生無し

陽性入所者の86%は施設内で療養しました。

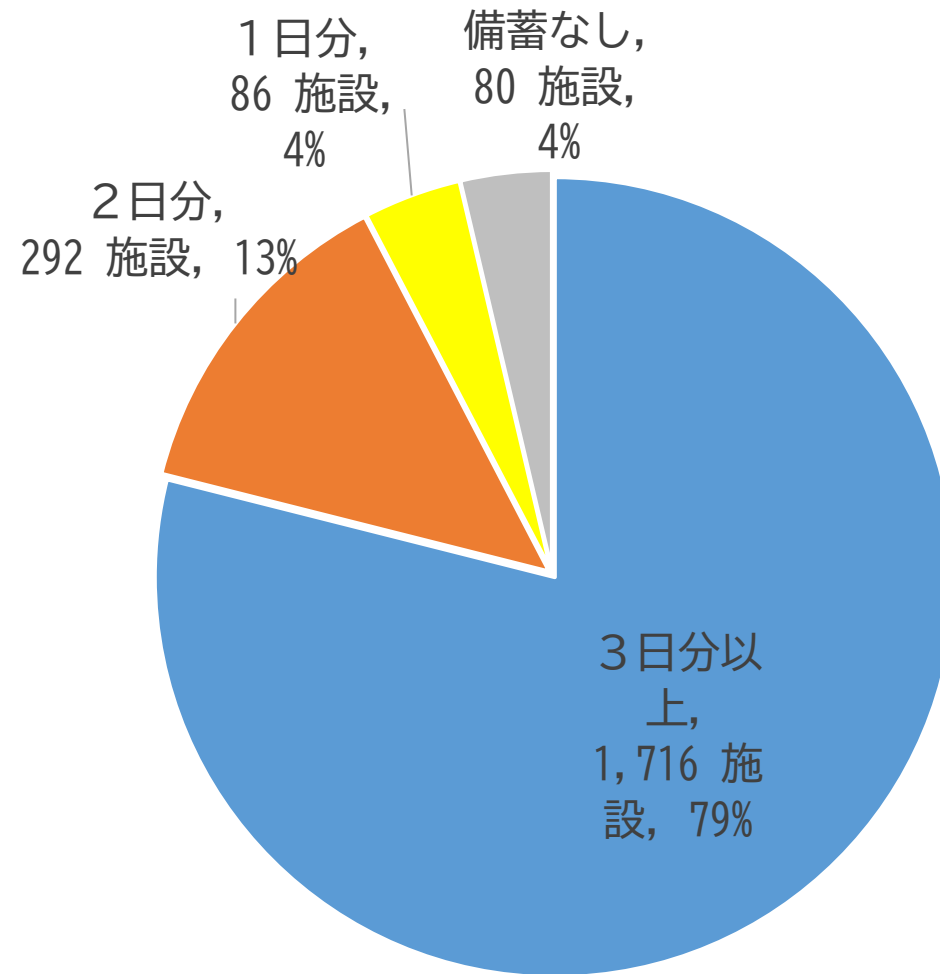


■ 施設内療養 ■ 入院 ■ 退去（一時帰宅含む） ■ 入院あり ■ 入院なしで施設内療養あり ■ 入院なしで退去（一時帰宅含む） ■ 回答不明

- ・ コロナ治療を実施した施設は全体の58%でした。
- ・ うち、85%は協力医療機関等の各施設と連携した医療機関でした。

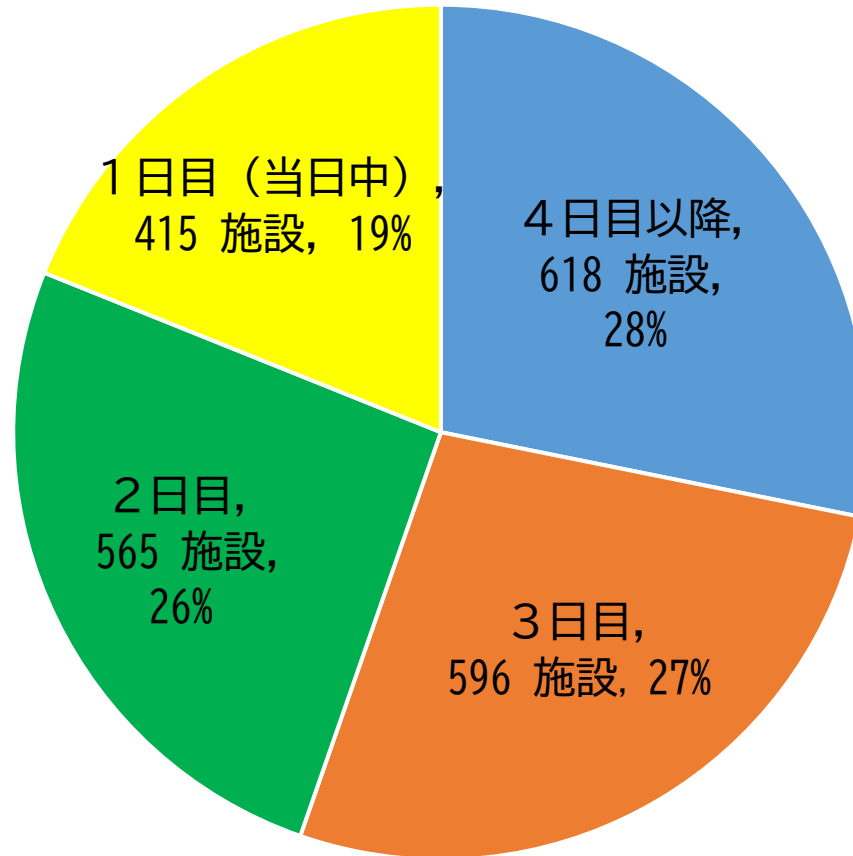


衛生用品の備蓄が3日以上ある施設は全体の79%でした。

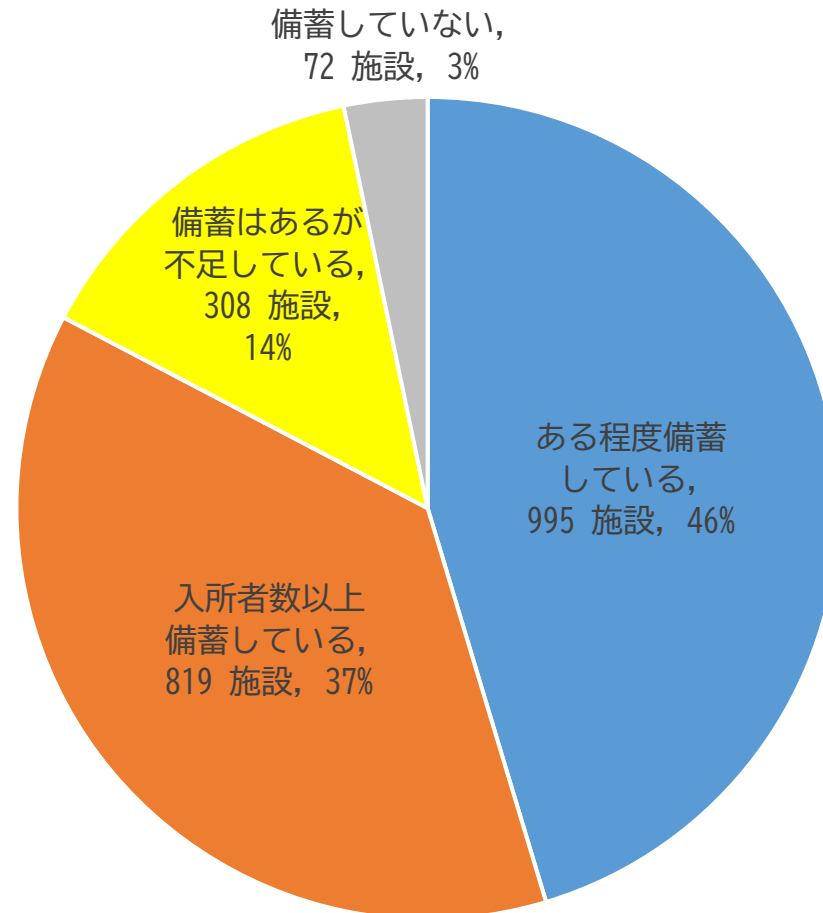


衛生用品の調達に3日以上かかる施設が全体の55%でした。

衛生用品の調達日数



抗原検査キットについて、入所者数以上備蓄している施設は37%、
ある程度備蓄している施設は46%でした。



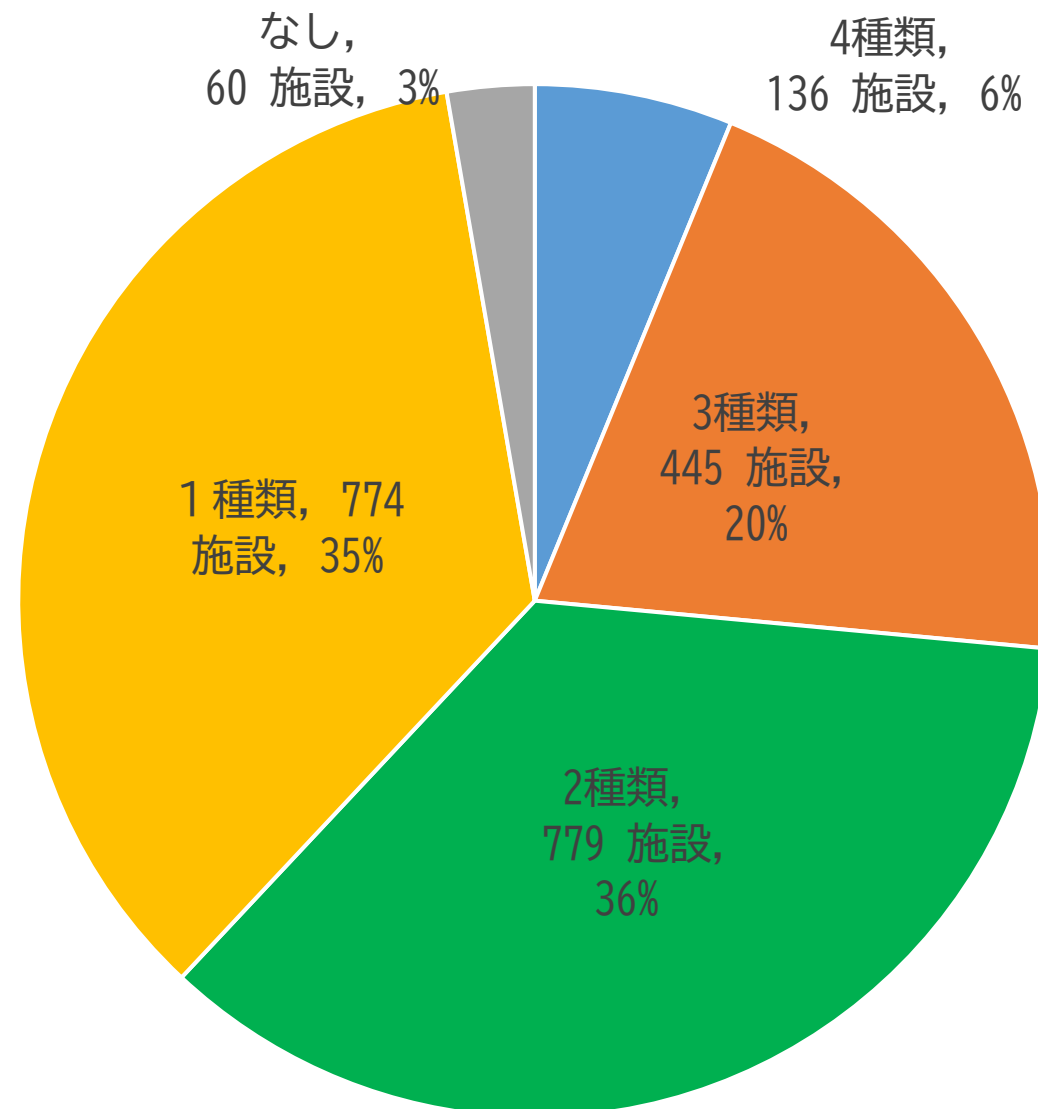
換気設備が何種類以上あるか

令和4年4月1日から令和4年8月1日

換気設備

- ①換気扇
- ②サーキュレーター
- ③空気清浄機
- ④全館空調

最新のコロナ対策では換気が非常に有効です。
換気体制の整備をお願いします。



感染発生時の相談先（複数回答可）

感染発生時の相談先は保健所等行政機関と協力医療機関がほぼ同数でした。

